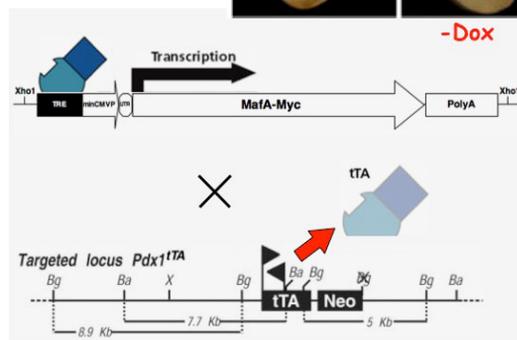
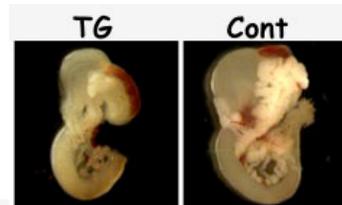


第13回 分子医学入門塾

■ 日時： 2014年9月9日(火)
18:30-19:30

■ 対象： 研修医、レジデント、
フェロー、大学院生、 若手医師

■ 場所： 国立国際医療研究センター
医局カンファレンス室
(旧外来棟3階)



■ 話題： 「遺伝子改変マウスを用いた膵β細胞の発生・機能の解析」

代謝疾患研究部室長 西村

涉

膵臓のランゲルハンス島を構成するβ細胞は、インスリンの分泌源として生体代謝に必須である。1型糖尿病患者に対する膵ランゲルハンス島移植療法の有効性が確立していることから、各種の幹細胞から機能的なβ細胞を分化誘導できれば、糖尿病の治療に直結すると考えられている。このような背景から、膵β細胞の発生・機能の研究はここ10年で加速し、細胞分化の領域で最もエキサイティングな分野の一つになっている。

本セミナーでは、研究発展の原動力となった、遺伝子改変マウスを用いた研究手法とその結果について分かりやすく解説するとともに、一人の地方大学出身の外科医が、どのようにして研究の魅力に引き込まれていったかについても、紹介していきたい。

参加申込み：

西村 涉 (wnishimura@ri.ncgm.go.jp)まで

※資料準備の都合上申し込みがあると助かりますが、
事前申し込みがなくても参加可能です。

■ 世話人： 清水孝雄 研究所長、研究所スタッフ